滋賀村マップ栞

① 早尾神社
（はやおじんじゃ

最澄や空海らと同じく唐への留学から帰った円珍（智証大師、ちしょうだいし）は、千石台を修験場の聖地と定め、貞観元年（859年）日吉の早尾明神を勧請して、園城寺（三井寺）の護法神とされると共に明神の本地仏である不動明王を崖下の大石卓に親刻され、早尾明神と共に寺門の鎮護とし山上浪切不動尊を開きました。

②錦織遺跡（長蓮寺旧跡）
（にしこおりいせき　ちょうれんじきゅうせき）

長蓮寺は園城寺（三井寺）の一支庵であったものが、文明3年（1471年）に園城寺の臣の林長房が蓮如に帰依して浄土真宗の一寺になったと伝えられています。昭和57年の発掘調査によって旧長蓮寺の遺構とみられる石垣の跡が検出されました。

③皇子山古墳群
（おうじやまこふんぐん）

弥生時代から古墳時代にかけて徐々に遺跡が多くなり、古墳時代の初めには、近江で最も古いと言われている皇子山一号古墳が、琵琶湖を見下ろす皇子山の頂上に造られています。昭和39年と昭和45年に発掘調査が実施され、現在は公園として整備されています。

多くの遺跡をはじめ、大宮人が数多く和歌残す恵まれた歴史、優れた自然をもっと多くの人に「知ってもらいたい」「守っていきたい」「伝えたい」の思いから生まれたマップです。

④近江大津宮（大津京）錦織遺跡
（おうみおおつのみや　にしこおりいせき）

新羅、唐の連合軍との大戦（白村江の戦い）に敗れた天智天皇（てんぢてんのう）は、西暦667年に突然都を飛鳥から近江に移しました。天智天皇は、遷都後わずか5年でこの世を去り、約5年の短命の都でしたが、近江令や庚午年籍など律令制の基礎となる施策を実行しました。

⑤宇佐八幡宮（うさはちまんぐう）

錦織郷に居を構えた源頼義が、八幡宮を創建する場所を探していたところ、神鳩が現れ、建立の地に誘導したため、治暦元年（1065年）この地に九州宇佐神宮を祀り産土神として宇佐八幡宮を建立しました。毎年9月に執り行われる古例夜祭りで、神輿が急な坂道を松明の明かりを頼りに威勢よく下っていくさまは壮観です。また**「むしはちまん」**と称し子供の守り神の名高く、名前を記した土鳩が奉納されています。

⑥宇佐山城跡
（うさやまじょうあと）

宇佐山（336m）の山頂に築かれた城郭、織田信長が森可成に命じて、元亀元年（1570年）に築城。2代目城主は明智光秀、光秀は坂本に築城を命じられ当城は廃城となりました。信長の安土城以前に最初に石垣を備えた城として貴重であり、その石垣が本丸跡に現存しています。三の丸跡は、**「宇佐山テラス」**と呼ばれる展望台となっています

⑦近江神宮（おうみじんぐう）

大化の改新を断行し、飛鳥から遷都し近江大津宮　（大津京）を営んだ天智天皇（中大兄皇子、なかのおおえのおうじ）を祭神として、昭和15年に創建されました。昭和20年に戦後復興を祭神に祈願した昭和天皇の勅旨により、同神宮は勅祭社に定められました。毎年4月には「近江まつり」で地域の子供神輿が参集し、6月第一日曜には流鏑馬神事が。また神宮の森は人工森として自然体系が豊かでドングリや冬虫夏草の種類も多く恵まれています。**かるた**と**時計**の聖地です。

⑧南滋賀町廃寺跡
（みなみしがちょうはいじあと）

近江大津宮関連遺跡の一つで、白鳳期創建の寺院跡、昭和3年と昭和13年に発掘調査が実施されました。飛鳥の川原寺と同じ伽藍配置で、中門を入ると東側に塔、西に西金堂が対峙し、その北側に金堂、講堂が順に並び、講堂を囲むように三方に僧房が配されています。

⑨榿木原遺跡
（はんのきはらいせき）

昭和50年から昭和53年にわたる、三次の発掘調査で近江大津宮（大津京）時代（667～672年）の瓦生産遺跡であることが判明しました。登窯では複弁蓮文軒丸瓦、重弧文軒平瓦、特に蓮華文方形軒瓦はサソリ文瓦と称され蓮を横から見たデザインで珍しく、ここでしか発見されていません。大津京時代に登窯に 5 基、奈良～平安時代の 5 基が入り交じって存在していました。

⑩大伴黒主神社／福王子神社
（おおともくろぬし／ふくおうじじんじゃ）

・大伴黒主は大友皇子（弘文天皇）の皇子で、大友姓を賜ったと言う大友与多王の子孫と伝えられています。大伴の名は、当地の旧名滋賀郡大伴郷に由来します。 黒主は平安初期の六歌仙の一人で、延喜17年（917年）宇多天皇の石山寺参詣の際に歌って、大いに賞賛されたと言われています・　祭祀は紀貫之で、延長八年（930）正月、土佐の守となり赴任、承平四年（934）十二月任を終えて帰京の途、「土佐日記」を紀行、翌年十二月に入洛、その徳を慕いて一小祠を建て神霊を鎮め祀る。境内には古墳時代後期（6世紀後半）の群集墳がある。この古墳群は横穴式石室をもつ15基の円墳からなる。

⑪百穴古墳群
（ひゃっけつこふんぐん）

百穴古墳群は6世紀後半頃（古墳時代後期）に造られた墓が多く集まったところです。表から見ると通路の入り口が穴のように見えます。この穴がたくさんあることから「百穴（ひゃっけつ）」という名称がつけられました。現在60基以上が確認されています。

ミニチュア炊飯セット

⑫志賀の大仏
（しがのおぼとけ）

高さ約3．5m幅約2．7mの花崗岩に厚肉彫りに彫出した高さ約3．1mの阿弥陀如来坐像です。13世紀頃（鎌倉時代）に造られたと考えられ、上半身に彫刻の主力をおいた、ゆったりとした雰囲気のただよう石仏です。この石仏の横を通る道は、崇福寺跡から山中町を経て京都の北白川へぬける旧山中越（志賀の山越）です。

⑬崇福寺（すうふくじ）

天智天皇によって西暦668年に建てられました。延暦年間の十大寺に選ばれるなど栄えましたが、室町時代には廃寺となっています。弘仁6年（815年）嵯峨天皇が、崇福寺で礼仏の後、その付近の梵釈寺（ぼんしゃくじ）で、永忠（最澄の世話役）から煎茶をたてまつられたと言われています。わが国における、「茶事・喫茶」の歴史の第1ページです

⑭志賀八幡神社（しがはちまんじんじゃ）

創立年代不詳であるが、白鳳時代の創建と伝えられています。往古は大社であったが、信長の比叡山焼き討ちをはじめ中古の戦乱による戦火で、社殿その他文書が焼失しているため創建の由来は不明です。毎年9月に執り行われる秋祭で、松明の明かりのなか、2基の神輿が進むさまは圧巻です。

⑮倭神社
（しどりじんじゃ）

祭神は天智天皇（626～672年）の皇后である倭姫王（やまとひめのおおきみ）と伝えられており、本殿は赤塚古墳（前方後円墳）の後円墳部に建てられ、通称「赤塚の明神さん」と地元で親しまれています。簡素な本殿にいたる参道には、東側にクスノキ西側にケヤキの巨木がみられ、それらは大津市保護樹木に指定されています。